

## 目 尾 張 分 場

### 1. 魚藻類増殖試験

#### (1) ガザミの種苗生産技術研究（昭和40年度指定試験研究）

昭和39年度より指定試験研究として、国費の補助をうけて実施しているものであり本研究の詳細については、別刷「昭和40年度種苗生産技術研究報告書」で報告したので参照されたい。ここでは、本研究の概略のみ記載した。

#### ア 研究の目的

「ガザミ」は、伊勢湾、三河湾海域での重要資源の一つであり、高級鮮魚として多大の需要がある。これらの海域では、各種底曳網、釜漁業、刺網類、角建網等によって漁獲され、近年700t～1,700tの水揚げがあり、全国最上位にある。又近年県下各地に蓄養殖施設が新設され、これの種苗の大量確保が要望されており、且つ当該海域は、その環境条件より「ガザミ」の発生成育場として、好適の条件を具備していると考えられることから、これの大量種苗化について研究をおこなうものである。このため本年度は前年度に引続き、(1)人工フ化による種苗の生産 (2)天然稚ガニの種苗化の基本線にそって更に研究を進めた。

#### イ 結果の要約

##### 〔人工フ化による種苗の生産〕

- A 40年度は早期産卵群での稚ガニの生産がうまくゆかず、水質・餌料等の再検討の必要が考えられたので、これ等の点について基礎的研究を行なった。
- B Zoea 期の高密度飼育、大量投餌には、水質的な限界に達する場合が多く、これが後令期Zoea や Megalopa の大量減耗の主因ではないかと考えられる。
- C Brineshrimp 卵の種類（産地・銘柄）により、ガザミの幼生の餌料効果に優劣があるようである。
- D Zoea を高密度に飼育することは第3令期までは容易であり、大量減耗はこの後に起ることが多い。
- E 幼生飼育途中の移槽分槽はZ I～Megalopa にかけて、餌料等注意して行えばどのstage でも可能であり特に困難ではない。

##### 〔稚ガニの成長について〕

- A 人工フ化による稚ガニのフ化時期と年内の成長度については、

6月中～下旬以前はフ化したものは、年内に生物学的最小型に達し交尾をする。7月中旬以降のフ化群では年内に成熟しない。年内に生物学的最小型に達せしめるには、6月下旬～7月上旬の間に限界があるものと思われる。

- B 稚ガニのフ化初期の成長速度は高水温期ほど、脱皮成長が、急速である。
- C 越冬については、止水保温で長期間放置したものは、低水温時に移槽したものは、大量のへい死があり、自然水温で放置したものは、止水でも生残がよかった。
- D 2年目の成長は、早期フ化群（6月19～27日フ化）で翌年秋には甲巾180mm、体重400g位に達した。後期フ化群（8月20日フ化）では翌年の9月には生物学的最小型前後までに成長した。

#### 〔天然稚ガニの種苗化〕

- A 流し網最盛期（7～8月）には、鬼崎港では甲巾100mm内外の若ガニが1日当り約1,000尾程度水揚げされ、単価も年間で最も廉価である。
- B 鬼崎漁協で7月17日と20日に甲巾100mm内外の稚ガニを購入し、約1時間を要して、水試へ陸路輸送した。市場に水揚げされた稚ガニは、既に市場でへい死し衰弱しているものが、19～48%に上り輸送中のへい死を含めて養成着手までに、種苗として利用出来たものは、50～70%であった。
- C 養成結果は飼育日数42～45日の間に、歩留りは45～46%でへい死が多かった。成長は平均甲巾では20%前後平均体重では2倍弱に増重した。  
総重量の増減は、へい死による減耗が脱皮による増重量より大きいため、取揚時には収容時の総重量より、10.9～14.8%の減量となった。
- D 減耗の原因は、脱皮途中で斃死しているものが最も多く、共喰いによるものは少なかった。
- E 脱皮は50～60%が1回以上脱皮し、水温27℃以上で脱皮が多かった。  
脱皮は日中でも盛んに行なわれた。
- F 日間摂餌率は主としてコチとカタクチイワシを給餌し、平均水温25.8℃（23.8℃～28.9℃）で5～6%であった。
- G 餌料効率は、本試験においては斃死が多かったため、斃死体重を加えて計算したが16.5%～17.5%であった。  
増肉係数は同様に計算して5～6位であった。

#### (2) のり白ぐされ対策（常滑市地先のり漁場環境要因調査）

伊勢湾の海部郡鍋田地先と知多郡知多町地先を結ぶ線で締切った伊勢湾防潮堤の完成で、湾流は事前と事後とで大きい変化があるものと予測された。

知多西海岸の、のり養殖にとって木曾、長良、揖斐の三川の流軸と名古屋港の都市、工場排水の流向は大きい影響を持ち、その良い面を利用した養殖がなされ良質の製品を産出していた。

しかし38年、39年に生じた白ぐされの被害は防潮堤の締切りによる潮流の変化でのり漁場の生産力の低下をもたらした一因とする業者の声が高く、公的な締切り後の湾流の調査がされていない現状より、常滑市内大野、鬼崎、常滑の3漁協の協力を得て以下の調査を実施した。

### ① 潮流調査

#### (ア) 第1回漂流びん観測

##### A 調査目的

防潮堤500m口(東口)、300m口(西口)と揖斐川河口の下げ潮の流向の調査を目的とした。

##### B 日時

昭和40年1月17日6時50分より15時まで

##### C 調査設点

第1図に示す st. 1～st. 6

##### D 調査方法

各st.より漂流びん30本を5分間隔に3回に分けて投入し追跡により下げ潮の流向を調査した。調査時間以後は漂流びん捨得の位置による予想によった。

漂流びんとしてビールびんを用い、砂で浮力を調整し、調査カードを入れ密栓して使用した。

##### E 調査経過と結果

###### a 気象、海況観測

各移動のst.が観測した結果は第1表である。

気象は早朝の寒気は酷しかったが、日中晴天で微風(N)で穏やかな日和りであった。

海況でst.1の透明度は港内より下げ潮で出てくる海水は大きく、防潮堤外で作業するサンドポンプ船周辺で小さかった。又南下するに従い、波立ちが少

なかったため透明度は大きくなる傾向であった。

st. 3の 木曾三川河口での比重は観測の時間よりみて、上げ潮で河川に追いつまれた海水が河川水より先に流下するため高かったものと思われる。

b 漂流びん調査の経過と結果

各st. の流向図は第1図である。

(a) st. 1

(i) 06:50より投下したびんはSSEに流下、次第にEに向き、知多町日長地先ののり漁場に向い動き小さくなる。08:35 15本を再び東口より流す(ii) (i)は09:30流向判明のため10本取り上げ日長地先2,000mより流す。(iii)

(ii)は海中灯台に向き急速に南下し、11:25海中灯台に達したので追跡を打切る。

(iii)は新舞子向け接岸後距岸1,200~1,500mで南下、15:00榎戸港に達する。

(b) st. 2

07:00投入、SEに向け流下、防潮堤沿いに東進し滞溜するものもできる。10:30日長沖で東口の本流と見られる流れと合し、12:00海中灯台西1000mを通過、15:00榎戸港沖3,000m地点に達す。

(c) st. 3

06:50投入、動き少く河口に溯上するびんもある。07:30より徐々にSEに動き08:50流れ大きくなる。11:30SWに転向、15:00海中灯台→四日市港4Km 地点で打切る。

(d) st. 4

大野港灯台と海中灯台の間地点より06:40投入、1団となり南下、13:00大谷-小鈴谷沖5Km で、動き小さくなりびん散らばる。

(e) st. 5

06:40 海中灯台より投入、WSWに流下、11:00潮目に沿い、12:00以後動き小さくなる。小鈴谷沖約8Kmで打切る。

(f) st. 6

大野港灯台→海中灯台2,000m沖で投入、WSWに流下、09:10よ

り潮目に沿い 12:00 以降動き小さく 13:40 打切る。

(イ) 染料による調査

A 目的

防潮堤東口より常滑地先までの近岸の潮流観測のため海面を染剤で着色し、その拡散流向を立体的に観測するのを目的とした。

B 日時

昭和40年1月18日 11時～11時30分

C 調査場所

防潮堤東口より常滑地先に至る16地点第3図に示す。

D 調査方法

各st.より緑色の蛍光染料20Kgを一斉に投入し、染色海水の流向拡散状況を航空機及び各st.船上より調査した。

使用した蛍光染料は Fluorescein-Na (Uranin) 1%を使用した。

調査機は中日本航空のセスナ機で鬼崎漁協員齊田八郎が調査に当った。又航空写真の撮影は名港管理組合日置主事が行なった。

E 調査経過および結果

調査は航空機からの調査が主体であるため、染剤の一斉投入により行なう予定であったが、調査機が予想以上の高度(2,000m)のため各st.の調査機確認が区々となり染料投入も不揃となった。st. 5. 6. 10. 11. 16は染料投入を行なわなかった。調査結果および調査時の名港における潮汐は第3図および第2図である。

st. 1は東口の本流通り、航路標識に向け3.0分間で1,500～1,800m南下し、st. 2. 3. ではN. NEに流れ、日長川、以北、防潮堤間に渦流が確認された。st. 4以下では、やや陸岸に向けて流下し、第1回の漂流びん調査に似た流れであった。(航空写真省略)

(ウ) 第2回漂流びん調査

A 調査目的

中潮時の潮流調査として、防潮堤東口、木曾三川の流軸、のり漁場近くの流れの知見を目的とした。

B 日時

昭和40年1月22日 9時45分～15時15分

C 調査場所

第4図に示すst. 1～st. 6

第1回観測の結果よりst. 2の防潮堤西口は東口と合流する見知から第2回では省き、日長川河口前に設点した。又st. 4、5、6も漁場前の潮流を観測するため、大野、常滑漁場近くに設点した。

D 調査方法

漂流びん投入後追跡により、30分毎の位置を確認し、追跡終了後は漂流びん拾得の場所より潮流を推察する。漂流びんは第1回と同数

E 調査経過と結果

各st.の流向は第4図である。

(a) st. 1

東口部での引き潮により吐出する名港内水は第1回観測での判明のように、引き潮の経過時間により、支流化する流れと本流となり海中灯台に向う流れに分岐する。

従って片潮間に本流と支流に分岐する時間を知るため09:50～11:45に5回に分けて投入したが、この間では経過する時間にしたがって本流になるような動きであったが次第にEに流向が変わり、日長～長浦間ののり漁場に漂流し渦流状の流れと変わった。

(b) st. 2

日長川河口部沖1,000mより09:50～10:20に投入したが次第に一団となり南下、15:00榎戸～蒲池沖に流れる。この流れはst. 4の流れより早く蒲池港前で追越しを行なった。

(c) st. 3

09:15～10:15より投下したが当初は河口に向い溯上、10:55かSSEへ動き始めそのまま直進し、15:00東口の航路ブイ西500mに達した。

(d) st. 4

09:50～10:20知多町大草沖500mで投入、大野地先のり漁場に入る事なく南下、15:00蒲池港沖で停滞反転向する。

(e) st. 5 常滑港外赤ブイで投入のり漁場と併行し南下，西阿野前で漁場に入る。以後やや西向に流向を変えつつ流下し15:00古場前防波柵より200m沖で打切る。

(f) st. 6 常滑港外赤ブイで投入のり漁場と併行し南下，西阿野前で漁場に入る。以後やや西向に流向を変えつつ流下し15:00古場前防波柵より200m沖で打切る。

(c) 上げ潮調査  
調査目的 これまで3回の調査は主として、下げ潮時の木曾三川と防潮堤東口、西口から流れる流れであり、のり漁場に及ぼす影響が大きいと思われる上げ潮時ののり漁場近くの流れの知見を目的とした。

B. 日 時 昭和40年2月5日 14時より16時

C. 調査場所 大野地先漁場より常滑地先漁場間 st. 1 ~ st. 8

D. 調査方法 各st.は第5図で示す十字板と蛍光染料を適宜投入し、上げ潮と下げ潮の流れを分別して上げ潮の流向を確認した。

E. 調査経過と結果

(a) 気象海況観測 観測結果は第3表である。観測時の名港での潮汐は第2図である。調査月日は当初の計画では2月1日を予定していたが風強く以後4日まで季節風強く観測不能であった。

5日は風弱まり小雨の中を調査強行したが降雪となり寒気酷しく上げ潮の経過時間が短い中に観測を中止した。

(b) 潮流観測 調査結果は第5図である。

上記の様に悪い気象の中を強行し、途中で調査を中止したので完全な結果は得られなかったが時間的にみて、上げ潮は常滑地先より順次大野地先へと伝わ

っているが、鬼崎地先においては満ち上りの当初の1時間は常滑地先からの上げ潮と鬼崎方面からの下げ潮の分岐点となり陸岸に直角の方向西へはね出す潮が観測された。

また上げ潮になってからの流向は陸岸と平行状況であり、以後しだいに防潮堤東口に向うような流向をとるものと予測され突出している漁場は別としてのり漁場に強く突込むような潮流は見られなくなっている。

(4) 漂流びん回収状況

調査開始以来漂流びん内に入れた調査用紙の届出があった件数は47件であり、その内訳は第5表である。漂流びんの全放流数は270本(漂流追跡打切り時回収されたものがあるため)で回収率は17.4%であった。これを考察すると

- A 1. 2回の調査で拾得できたびんの85%が小鈴谷～多屋であり時間的経過が短い間に回収された。
- B 知多町日長川以北で回収されたのはst. 1の防潮堤東口からの放流で長浦～日長を指向したびんである。これは染料調査で判明しているように、東口と日長川を結ぶ線の岸寄りに渦流がありこの中に入って流れ出る事がなかったものと思われる。
- C 小鈴谷地先にはこれまで回収されなかったst. 4を除いた中でst. 1, st. 5以外のst. のびんが回収されている。
- D 木曾三川の流向を示すst. 3からのびんは第1回ではNNWの風で強く流下して上げ潮にも知多西海岸に接岸せずに南下した様である。第2回は小鈴谷地先のみで回収されている。
- E 第1回観測のびん拾得者の記入が不明確であったが、1. 2回共拾得は知多西海岸のものはst. 別に集団となって回収された点より東口からの本流も木曾三川のものも小鈴谷～野間沖に流下したものが潮汐が大きい夜の満ち潮でのり漁場に入ったものと推定される。

(5) 潮流調査結果からみた湾流の推定

漂流びん調査2回蛍光染料調査、十字板による調査各1回の結果をまとめて一応湾流を推定すれば第6図が予想される。

- A 防潮堤西口から吐出する名港港内水は扇状に拡がるが次第にSEに向い東口からの港内水の流れと合流して本流となっている。合流の地点は潮汐の大きさ、下



げ潮の強さ，風により東口に寄りとなるか，海中灯台寄りとなる。

- B 東口から吐出港内水の下げ潮は満潮から時間経過と共に強い流れとなって海中灯台に向い，その流軸は潮汐の大きさ，季節風の強さで知多沿岸に接近したり離岸したりしている様である。
- C 東口からの強い流れで沿岸沿いの流れは沖から次第に弱まっていて支流が形成されているが，この支流は知多町日長一長浦で渦流となっている。
- D 従って防潮堤から常滑地先までの奥まったりの漁場の下げ潮による海水交換は弱まっている。
- E 水質上のり養殖によい影響がある木曾三川の流軸は，三川の流量と季節風防潮堤東口の本流に影響され，下げ潮で直接に知多西海岸へ接近することがなくなっている。

これは東口からの本流が壁となり，壁に沿った流れで野間沖合まで流れ，本流と合流しつつ上げ潮で野間一小鈴谷地先に接岸する様である。以後大谷附近を限度として北上せず，下げ潮で沿岸沿いに南下している。

## ○ 水質調査

のり養殖にとって漁場の水質はのり品質，病害等に大きな影響を持ち漁場の生産力を左右する最大要因である。のり作柄が悪くなりそれが水質に由来すると判断された場合水質の良否を判定するには，その漁場の水質について継続して完全な水質分析を行わねばならず，このためには高度の技術と設備を必要とする。

各地でも病害の発生要因，工場排水等の分析結果による判定に苦しんでおり，昨今分析のみに頼らず試水を使用しての動・植物培養が判定に使われており，今回の調査にあたっては，スケルトネマ培養による方法とのり葉片を使用しての生産力調査を試みた。

### A 第1回試験

- (a) 採水月日 昭和40年1月18日 13時～17時
- (b) 採水地点 第8図に示すst. 1～st. 8
- (c) 試験方法

試水を脱脂綿で濾し，100ccを三角フラスコにとり，これを予め用意したスケルトネマの濃厚培養液より1ccとり試料に加えて，800ルクス前後の明るさで培養した。

ブランクの試験として改良ミッケルの培養液で同一操作し試水と2日後，7

日後の増殖状況を比較した。底層水にはE. D. T. A. 3 mg/l を加入した。

判定の方法は 卍 ブランクと同等以上

++ やや劣る

+ 劣るが正常な増殖

⊕ 増殖に不正形が多い

- 増殖が非常に少ない。

で表現した。

## B 第2回試験

(a) 採水月日 昭和40年2月5日 15時～16時45分

(b) 採水地点 第1回採水と同一地点

気象悪くst. 5 までで打ち切り

(c) 試験方法 第1回と同じ

## C 試験結果

2回の試験結果と採水時の海況は第5表である。

スケルトネマの培養結果では底層水とst. 8の海竜丸作業現場での採水が悪かった。

C. O. Dとの比較では第1回のst. 1. 2. 7の底層, st. 6. 8の表層の様にC. O. D値が高いものに増殖が悪く, 変型が多く出た事は, 海水中の有機物のある種がスケルトネマ増殖の阻害となっている様に思われた。

### ◎ のり葉体による生産力試験

植物は光線下で炭酸同化作用を行ないCO<sub>2</sub>をとり, O<sub>2</sub>を放出する。のりの場合使用する試水の水質により同一条件下では単位面積当りの葉体でO<sub>2</sub>の生産量に差があり, 水質の判定に用いられる場合がある事が報ぜられている。

三重県立大学水産学部の坂本助教授は知多西海岸で昭和39年12月20～21日に漁場環境要因調査の予備調査でこれを試験し「生産力試験は潮別, 深度別に行なう必要があり, また特に浮泥の影響を実験で実証し, 同一試水に関し, 試験数をふやして行なう必要があるとして結論は白くされは名古屋港内水の漁場通過に原因とする。」としている。

この試験の反復として次の2回の試験を実施した。

#### a 方法

試水は酸素びんにとり冷暗所に保存採水の翌日1cm<sup>2</sup>ののり葉片10片を酸素び

んに入れ曝光後ブランクの酸素量の差を求めた。

D 採水地点

スケルトネマの判定試験と同一採水で第8図に示す①～⑦まで。

C 試験結果

第7表が試験結果である。O<sub>2</sub>生産量が大きい程、のり葉体の活力が大きい事であり良い水と判定されるが、試験にあたって酸素びんの保有少く同一試水につき一回の検定するに終り測定に誤差がある事は否めなかった。

第1回は底層水が表層水に比し数値が少なくスケルトネマの判定に似た傾向を示している。しかし、第2回の数値は名港内より南下するに従って数値が小さく、スケルトネマの結果と全く逆となっている。

しかし、試験回数と同一試水につき検定を増せば水質判定の方向が見出せそうである。

○ 浮泥調査

鬼崎漁場を中心に西、北西の季節風が強い日は懸濁物質が多くなり、乳白色の濁りを生じ、海中の透明度を悪くしている。これが間接的には透過光量を少くし又直接的にのりに有害物質を含む様であり、又硅藻（アクナンシス）の繁茂を助長して白くされの要因をなしたとも考えられるので浮泥採集器として第8図を作製し漁場に設置し、以下の調査を行なった。

(ア) 第1回調査（予備調査）

A 浮泥採集器について

使用した竹は周り18cm（通称6寸竹）の直なものを選び1～2節間隔に約9cm<sup>2</sup>の口を開け、浮泥が潮流波浪により、口から侵入すれば竹の中で流れが止り、底に沈殿することになる。

一旦沈殿したものは管状の中にあるため吐出することが少い様である。

採集器の口の高さは海底よりのものであるが干潮時には傾斜するので厳密な高さではない。

B 調査場所

第8図に示す①～⑦の地点

C 調査期間 設 置 1月18日  
取 上 2月 5日 } 18日間

#### D 調査結果

各調査点に使用した採集器の仕様と採集した資料は第8表である。沈着した浮泥の量は沈澱管で3時間以後に計測した。st. 6, st. 7 は調査中に流失して回収できなかった。

この結果からすれば採集器は一応水深別に浮泥を予期以上に收容を行った様であり、この方法で浮泥の水深別の資料が得られる事が認められ以後この方式による浮泥採集を継続した。

浮泥の量は調査の区間では南下するに従って増加している。st. 5の様には防潮堤東口部寄りの沖側に少く、岸に接近した設点に多いが、これはこの浮泥が直接に防潮堤東口から来ているものでなく防潮堤外の海中か、のり漁場に近い海底から来ていることを意味するものであろう。したがってのり漁場に近い部分にこの様な浮泥の堆積があるとすれば従来見られなかった現象であり何故この事態を生じたかが追求されねばならないし、この浮泥とくされの関係が問題となる。

#### (i) 第2回浮泥調査

第1回1月18日～2月5日の浮泥調査で、採集量は常滑市民病院下までは南下するに従って増加し、これが白ぐされと関連ある様に思われたので、更に設点を21ヶ所に増し調査した。

#### A 浮泥採集方法

第1回調査と同じ

#### B 調査場所

知多西海岸、防潮堤東口より美浜町上野間に至る間で、漁場の直前とその沖合800～1,000m(沖)に第9図の様にst. 1～st. 21まで設置した。

第10図は各st.の地盤高と満潮時における採泥器が水中にある位置を示したものである。

干潮時には採泥器は傾斜して最上部の窓が干出する程度であり窓の位置は降下して同一水位の採泥を正確に行なったものでない。

#### C 設置期間

3月5日設置し14日後の3月19日に回収

#### D 調査結果

各st.に設置した採集器の回収はst. 5以外はほとんど設置位置附近で回収した。

st. 19は採集器が虫喰いのため節が抜けていたので資料が得られなかった。更に第1回調査時のst. ⑥の採泥器がst. 7附近で60日目に回収をみた。

採集した浮泥は第9表である。窓の単位面積当りの採泥量は防潮堤から大野地先まで漸減し、蒲池から刈谷地先が多く、以南は減少している。これは第1回の調査とよく似た傾向である。設点では漁場の沖と高では高が多い。

第1回調査のst. ⑥を回収したが回収地点のst. 7と採泥量を比較すると4:1となり経過日数の比とほぼ同一の採泥を行っている。

水位毎の採泥では-1m~0m層の採泥が多いが高では水位が低い程多い結果となっている。

浮泥の性状は分析を行い得なかったが、外的性状はst. 9の蒲池からst. 14の病院下までが黒変し硫化ガス臭が強く南下するに従って色がうすい褐色となっている。st. 9以北ではst. 3とst. 1が強く黒変と硫化ガス臭を有していた。

処理能力の範囲で電気炉で800°C前後で3時間焼き減量を調べ有機物含量の目安とした。

結果は第1表であるが、減量は浮泥が黒変し硫化ガスの強い地点ほど多く、南下するに従って少い。又4月12日大野沖で海底から採泥した泥土の灼熱減量は7.79%で、同一地点のst. 7とほぼ同一の減量であった事が注目された。

以上の結果より第一回調査で予測された様に大野から常滑に至る漁場近くに堆積した泥土の影響をかなりうけている事が認められる。

この泥土がのり幼芽・葉体に直接及ぼす影響については実験を進めねばならないが泥土の黒変と硫化ガス臭の強さが39年度の白ぐされ発生の経過地域と似ている点は大きな関連を示すものと云えよう。

#### (ウ) 第3回調査

40年度も環境要因調査として浮泥調査を行なった。

##### A 採泥方法

前2回の調査と同じ

##### B 調査地点

第11図に示す様に第2回とほぼ同一地点に設点した。

第12図は各地点での地盤高と満潮時の採集器の位置を示す。

##### C 調査期間

昭和40年12月14日投入し41年1月27日取揚げた。

#### D 調査結果

採集器の回収は期間中漁船の操業が多かったため、20本中13本の回収で7本流失した。

採泥量、乾燥重量、灼熱残量は第10表である。採泥量は全般に第2回調査と比較(期間から見て2倍量)して、やや少な目であるが、st. 13, 14 の競艇場前とst. 20の上野間沖は前回より非常に増加している。傾向的には前回蒲池地先が量の中心であったのがやや南下して榎戸、多屋間に来ている様である。

浮泥の性状は外的観察ではst. 2 ~ st. 14 間の浮泥は黒変して強い硫化ガス臭を有している。

これは第10表に示す乾燥重量と採泥量との比が少い程その傾向が強く前回に見られなかった傾向としてst. 17の刈谷沖まで黒変してきている事である。

灼熱残量の方法として秤量後濾紙にとり、天日で1日乾した後100°C前後で12時間乾燥機に入れ乾した。それを秤量後800°Cで5時間灼熱し放冷3時間後秤量した。結果は浮泥の黒変が強い試料ほど乾燥重量が少なくなり逆に灼熱残量は大きい数値を示した。浮泥中の有機物の量だけを判定するには乾燥重量と採泥時の容積の比較だけで目安となり得た。

以上第3回の調査を考察すれば黒変した浮泥が南下している事が推察され40年度ののり養殖で39年度比較的白ぐされの被害が遅れて小さかった常滑、小鈴谷地区が40年度は早く殊に大谷地区に珪藻によるどた腐れ状の病状が見られた事は白ぐされと浮泥との関係が更に明らかとなった様に思われた。

#### ○ 調査結果からの考察

潮流、水質、浮泥を調査した結果から常滑市地先ののり漁場は伊勢湾防潮堤の設置後急速に悪化した事が認められる。これから39年度の白ぐされによるのり不作を推察すると

ア 伊勢湾防潮堤の設置は伊勢湾奥部の湾流に大きな変化を与え、下げ潮時防潮堤東口で生ずる強い本流は木曾三川の流れを転向させ知多西海岸に接岸し難しくしている。

イ 防潮堤東口からの強い流れで防潮堤より常滑地先に至る間に沿岸寄りに次第に弱まる支流を作り、のり漁場内の海水交換を悪化させた。

ウ この支流は環流を作り、水質が良い場合はのりの生育に影響が少いが水質が悪化し

た場合、のり網の干出操作により急速にのり生理に障害を与えた様です。

エ 水質を悪化させた要因として考えられるのは名港内の汚水の他防潮堤外での作業船の濁りの中にも有害物が存在している様である。

オ これらの浮泥がのり漁場近くの環流化により、のり漁場近くに沈積して季節風により、浮上し、海水を灰白色化している。

この浮泥は鬼崎地区地先が多く漁場の沖より高が多い。この浮泥がより透明度を悪くし、のりの生理障害を助長させると共に有害物質を含有する様である。

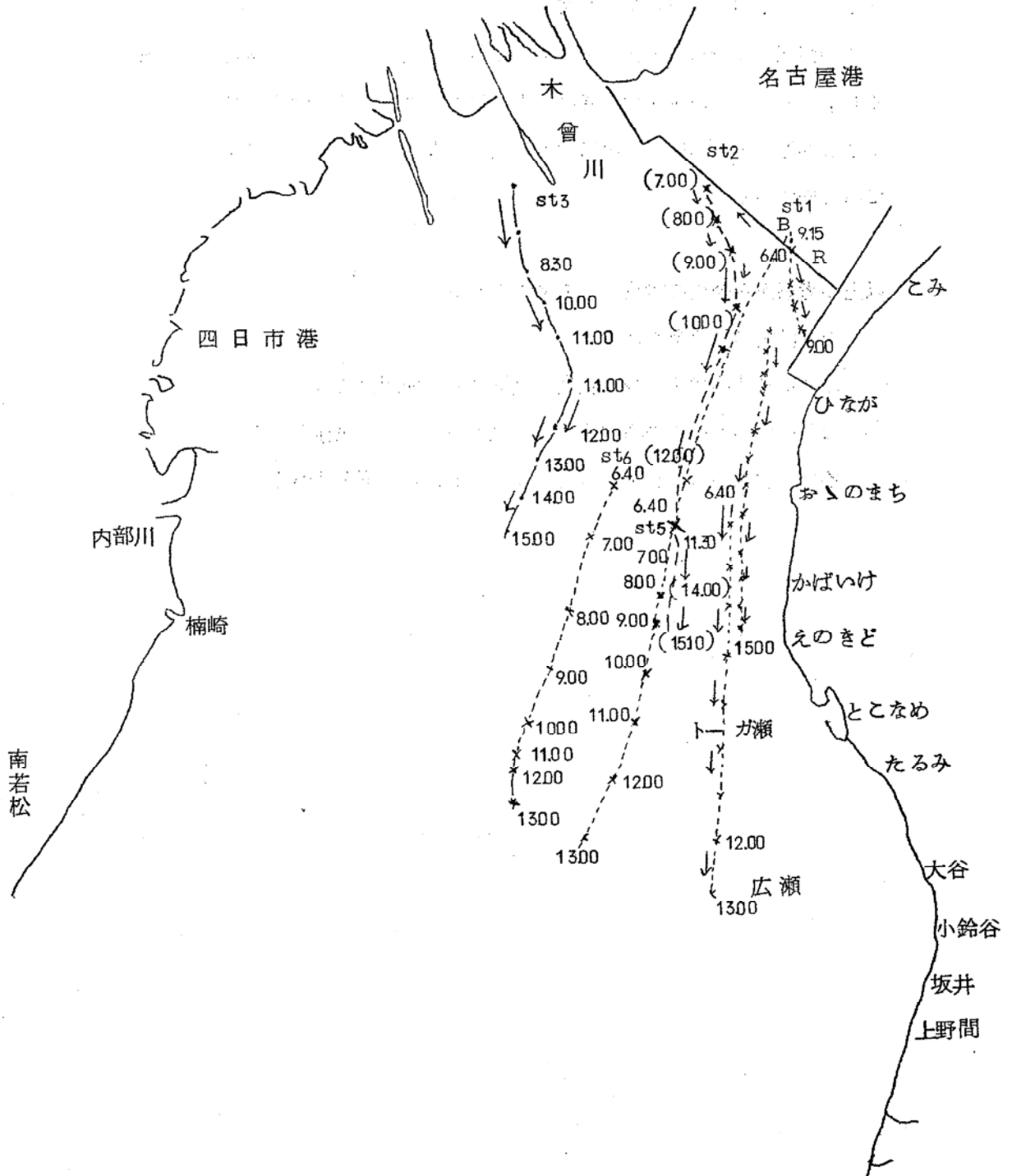
この浮泥は40年度は次第に常滑地区まで及び40年度の白ぐされとも関連してきている様である。

以上の考察から今後の対策として考えられる事は

- のり漁場の行使を改める。
- のり網に硅藻付着が少い化繊の長繊維網を使用する。
- のり網の養殖初期の抑制操作が出来ないので冷蔵保存を行う。
- 冬期の愛知用水の利用を考えのり漁場の比重低下をはかる。

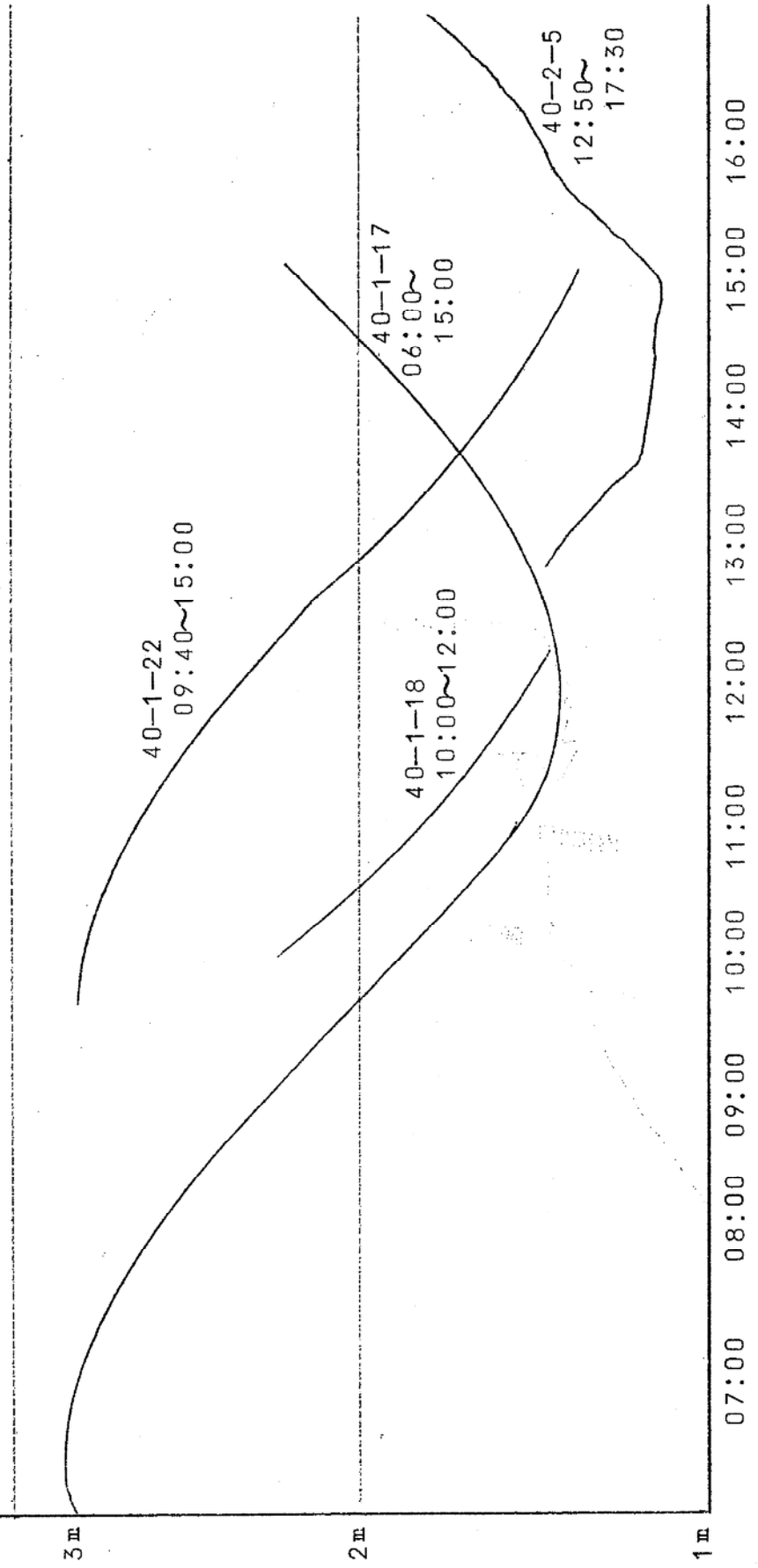
オ1図 オ1回漂流ピンによる潮流調査

40. 1. 17 - 6.40 ~ 15.00



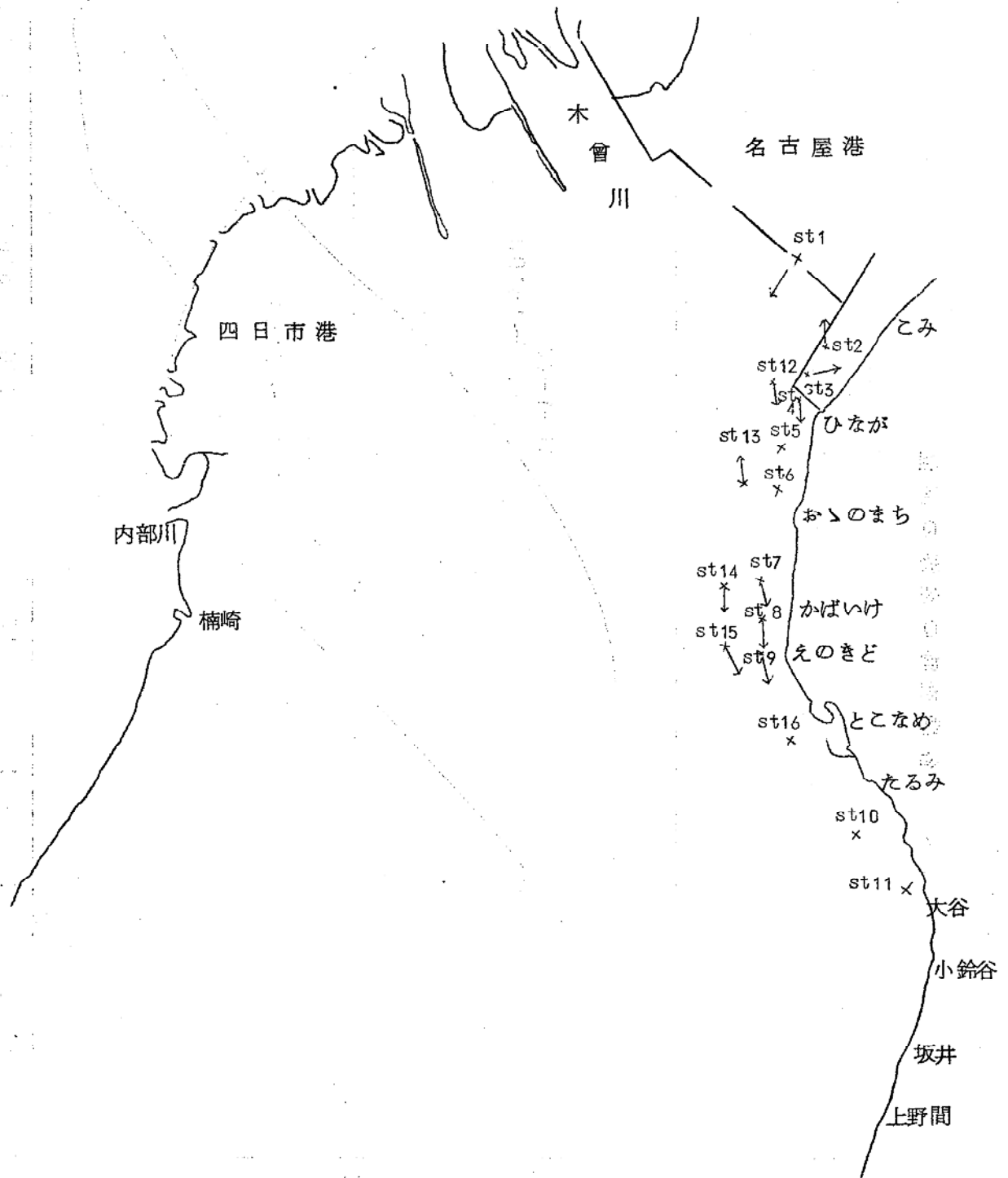


才2図 各調査時の名港の潮位



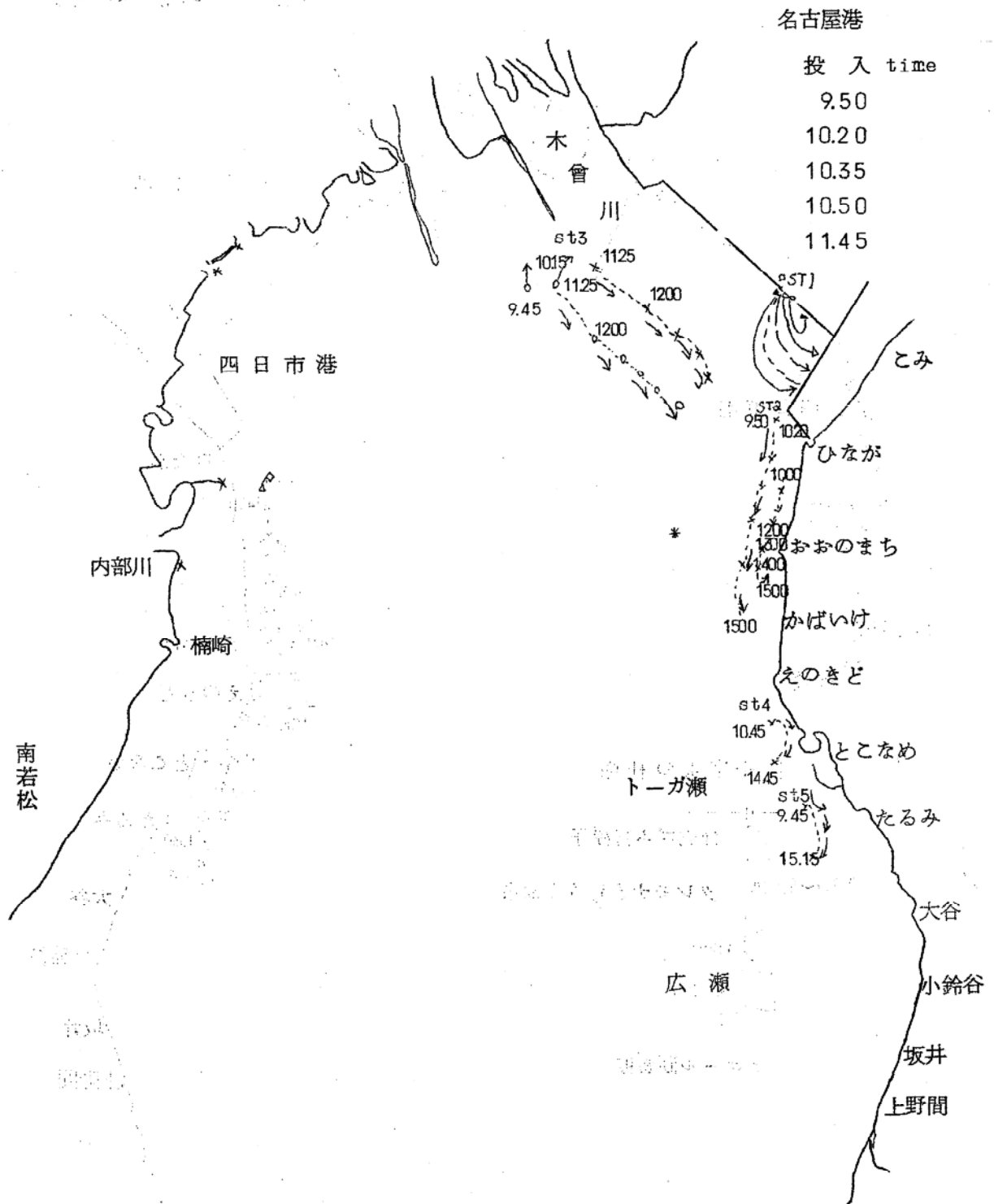
才3図 染料による潮流調査(航空機観測による)

40. 1. 18 11h~12h



才4図, 才2回 漂流ピンによる潮流調査

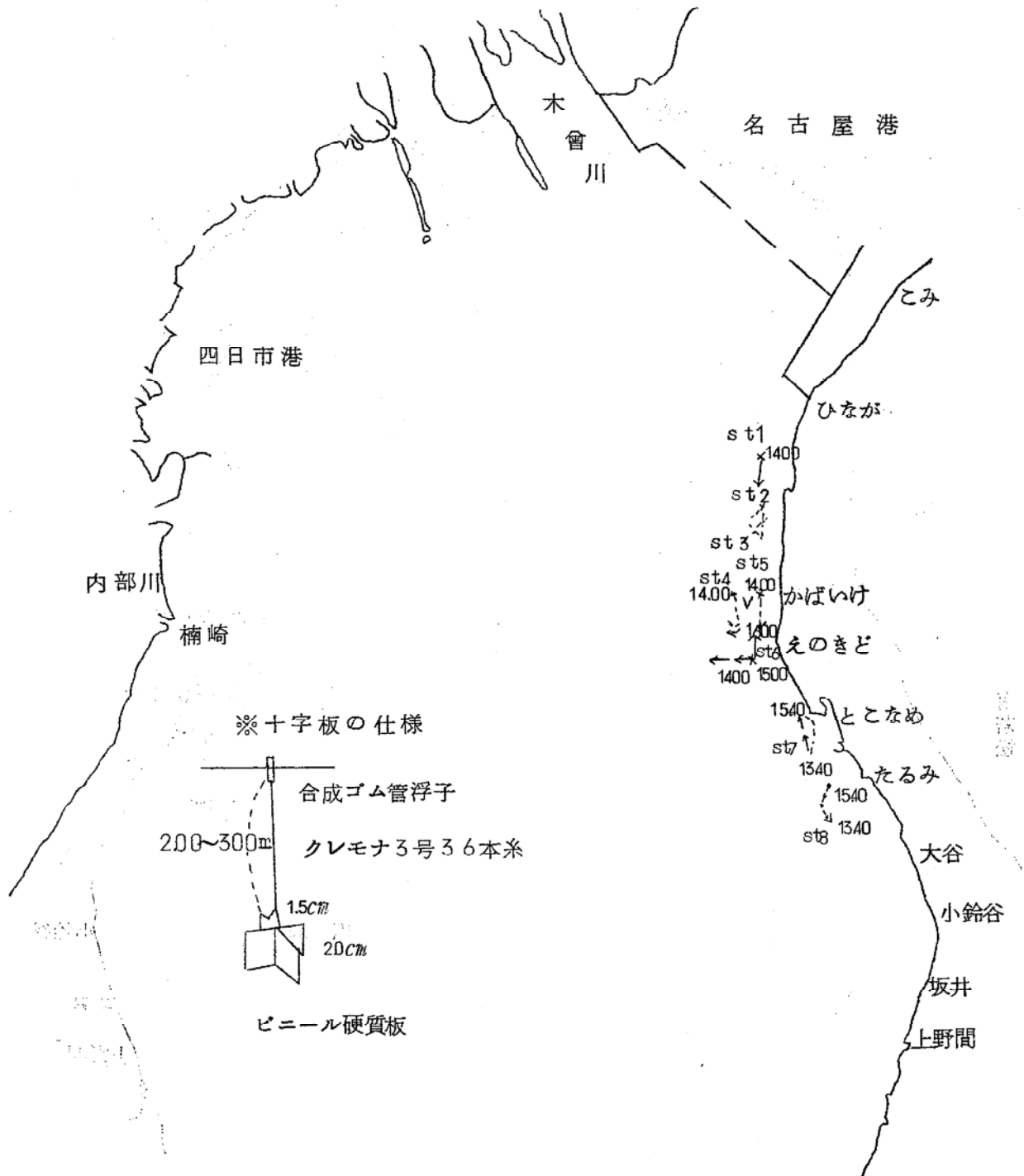
40. 1. 22 9.45 ~ 15.00



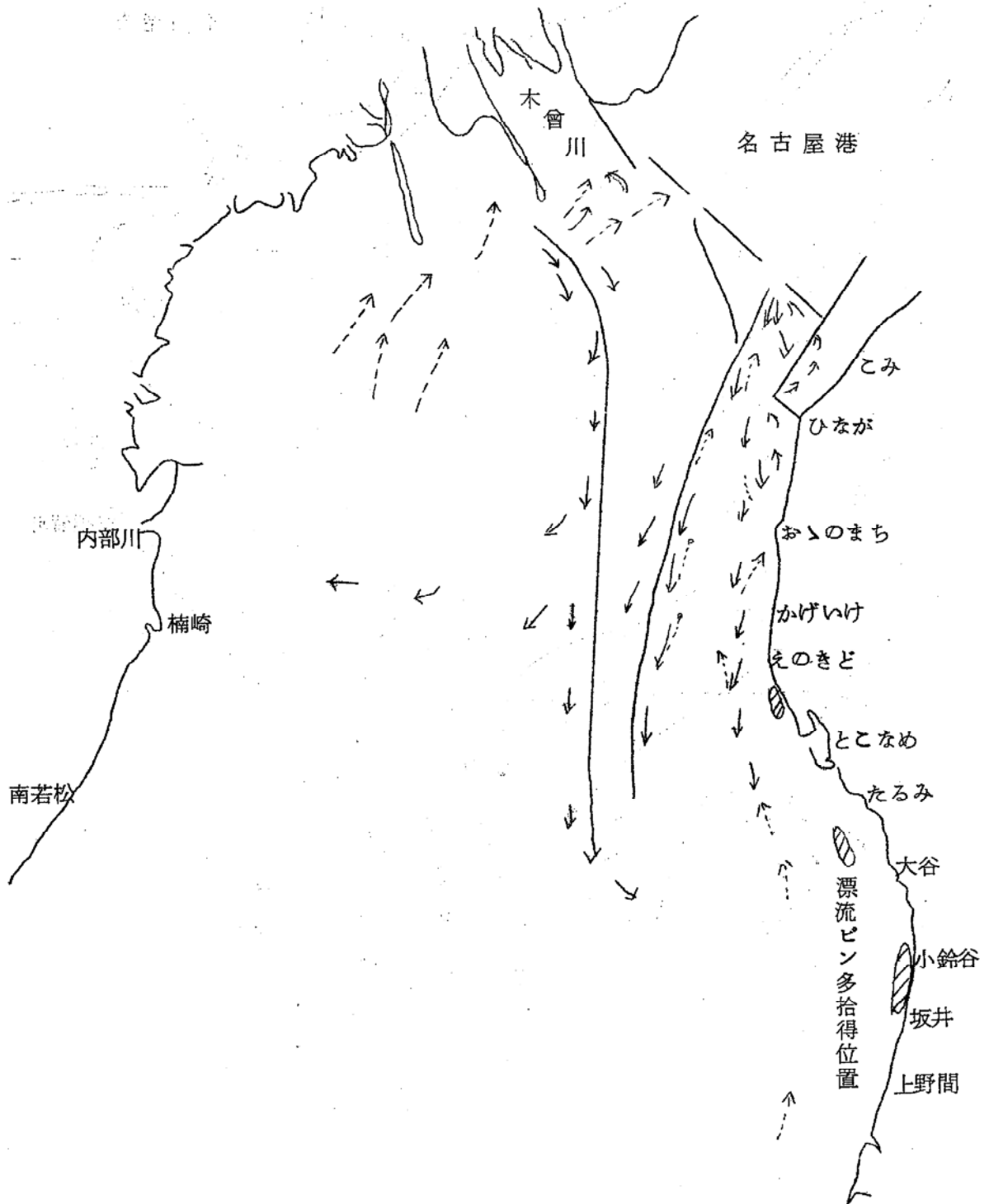
才5図 十字板による潮流調査

(染料による調査を併行)

40. 2. 5~14.00~16.30.



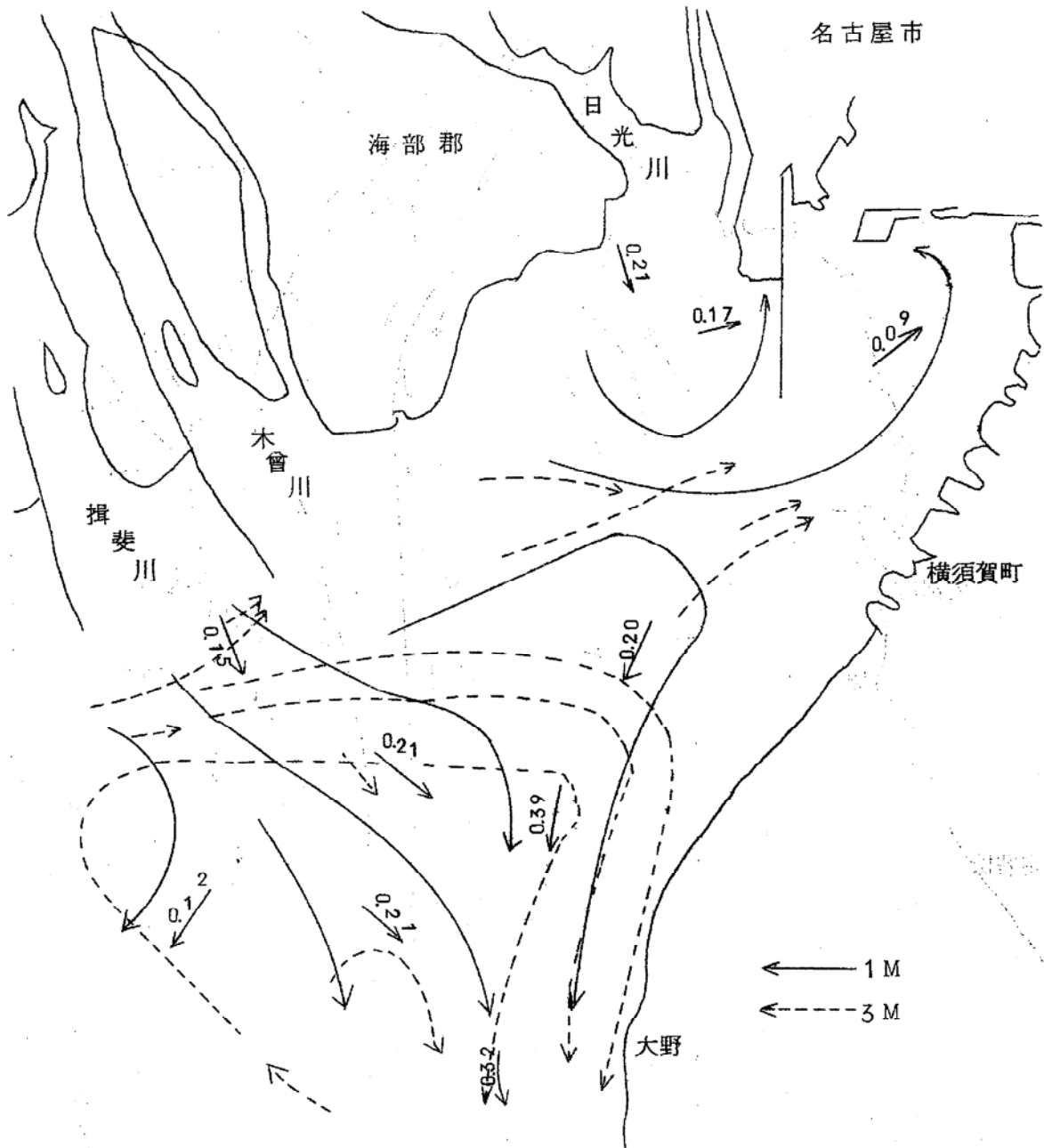
才6図 調査結果より想定される潮流



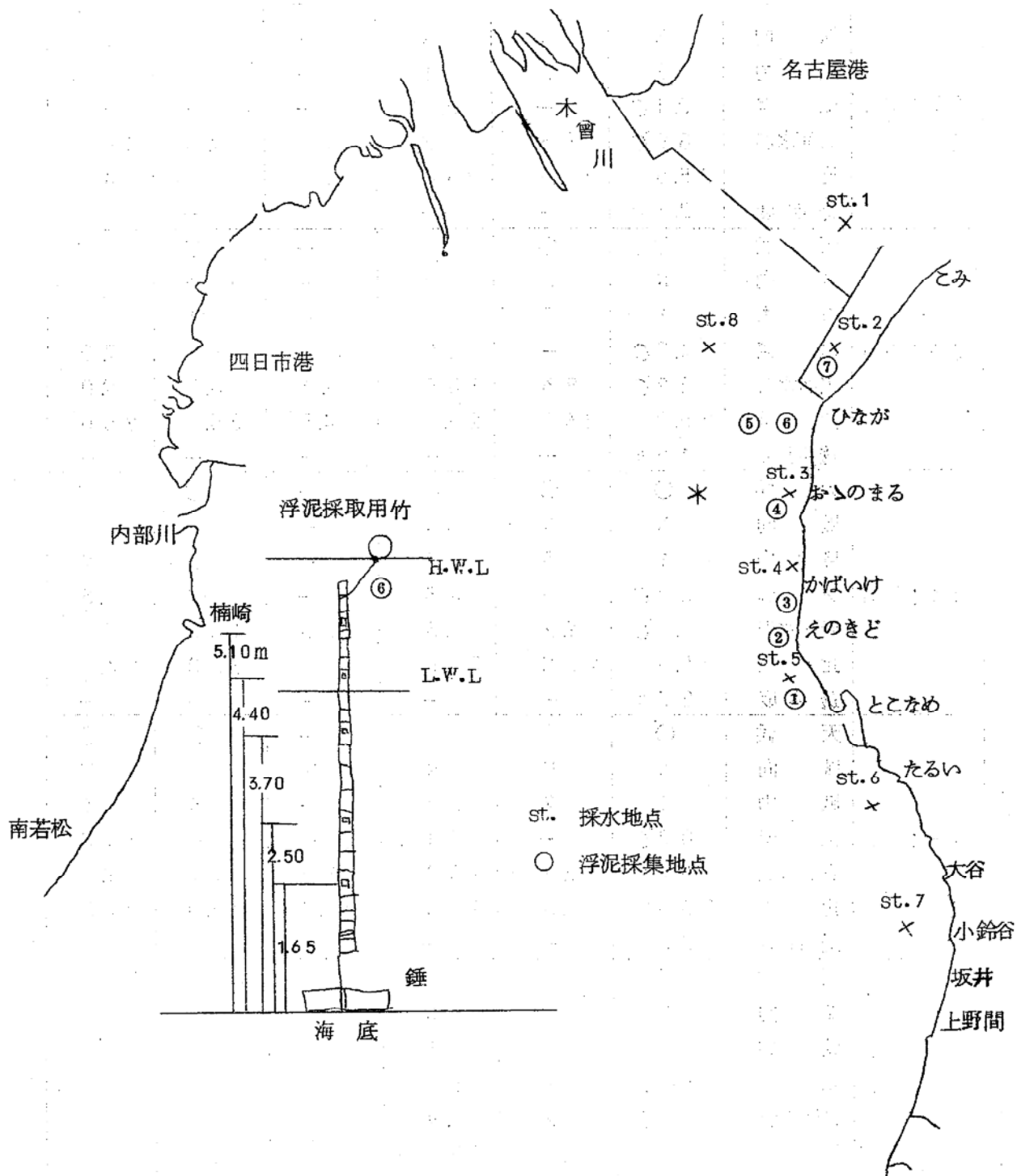
第7図 名古屋市外潮流観測概報

昭和33年9月15日~10月25日

海面下1M 3M恒流



第8図 水質試験及び浮泥採取試験資料採取位置



才 1 表 才 1 回 潮 流 観 測 - 気 象 観 測

時刻	気 象	s t					
		1	2	3	4	5	6
07:00	天 候	○	○	○	—	○	○
	風 向	N	N	N	—	N	NNW
	風 力	2	2	1	—	2	2
	気 温	0.1°C	—	2.5	—	3.9	3.0
	表面水温	8.9°C	8.5	9.5	7.5	7.5	10.5
	比 重	25.5	26.0	25.0	25.0	25.0	24.0
	透 明 度	2.5 m	—	—	—	—	—
09:00	天 候	○	○	○	—	○	○
	風 向	N	N	N	—	NNW	N
	風 力	1	3	1	—	1	1
	気 温	4.0°C	—	3.0	—	6.1	7.0
	表面水温	8.2°C	8.3	10.5	7.1	8.9	9.0
	比 重	25.0	26.0	26.0	24.5	25.0	25.0
	透 明 度	1.5 m	—	—	—	—	—
11:00	天 候	○	○	○	—	○	○
	風 向	N	N	NNE	—	N	N
	風 力	1	3	2	—	2	2
	気 温	6.2°C	—	4.3	—	—	10.5
	表面水温	8.8°C	9.2	9.5	8.5	10.0	9.5
	比 重	25.0	26.0	26.0	25.0	25.0	24.5
	透 明 度	2.7 m	—	—	—	—	—
13:00	天 候	○	○	○	—	○	○
	風 向	N	N	N	—	N	N
	風 力	1	2	2	—	3	3
	気 温	8.2°C	—	9.4	—	—	11.0
	表面水温	9.2°C	9.2	10.0	8.0	9.9	9.5
	比 重	25.0	26.0	24.5	25.0	25.0	24.5
	透 明 度	2.5 m	—	—	—	—	—
15:00	天 候	○	○	○			
	風 向	N	N	N			
	風 力	1	2	1			
	気 温	8.8°C	—	8.2			
	表面水温	9.2°C	9.2	9.8			
	比 重	25.2	26.0	25.0			
	透 明 度	2.6 m	—	—			



才 2 表 才 2 回 潮 流 観 測 - 気 象 観 測

時刻	気 象	st					
		1	2	3	4	5	6
10:00	天 候	○	○	○	○	○	○
	風 候	W	W	SW	W	W	W
	風 力	0	0	0	0	0	—
	気 温	7.5°C	11.0	7.5	—	10.0	11.0
	表面水温	10.0°C	8.0	9.0	8.8	9.5	9.0
	比 重	25.5	22.5	26.5	25.0	26.0	25.0
	透 明 度	—	—	—	—	—	—
11:00	天 候	○	○	○	○	○	○
	風 向	W	W	W	W	W	W
	風 力	0	0	0	0	2	2
	気 温	8.0°C	11.0	7.0	—	10.5	14.0
	表面水温	10.5°C	9.1	10.0	9.0	9.5	9.0
	比 重	25.0	24.0	24.0	25.0	26.0	25.0
	透 明 度	—	—	—	—	—	—
12:00	天 候	○	○	○	○	○	○
	風 向	NW	W	W	W	NW	W
	風 力	1	1	0	1	1	0
	気 温	10.0	—	12.0	—	11.0	13.0
	表面水温	10.0	9.1	10.0	9.0	9.0	9.0
	比 重	25.0	25.0	23.0	25.0	28.0	25.0
	透 明 度	—	—	—	—	—	—
13:00	天 候	○	○	○	○	○	○
	風 向	—	—	—	—	—	W
	風 力	0	0	0	0	0	0
	気 温	12.0°C	—	10.5	—	14.0	13.0
	表面水温	11.0°C	9.2	10.5	9.2	9.0	9.0
	比 重	25.0	25.0	25.0	25.0	28.0	25.0
	透 明 度	—	—	—	—	—	—
14:00	天 候	○	○	○	○	○	○
	風 向	NW	W	NW	W	N	N
	風 力	1	2	1	2	1	1
	気 温	10.0°C	—	11.5	—	11.0	13.0
	表面水温	10.5°C	9.3	9.5	9.3	9.0	8.5
	比 重	25.0	—	25.0	25.0	28.0	25.0
	透 明 度	—	—	—	—	—	—

才3表 才3回潮流観測 - 気象観測

時刻	st 気象	1	2	3	4	5	6	7
		14:00	天候 風向 風力 気温 表面水温 比重 透明度	○ NE 3 1.0 8.0 25.0 —	○ NE 2 — 8.0 25.0 —	— — — — — — —	○ NNE 2 4.0 8.0 24.0 —	○ N 2 — 7.1 26.0 —
15:00	天候 風向 風力 気温 表面水温 比重 透明度	—	○ NE 2 — 8.0 25.0 —	○ NE 1 2.0 8.0 25.0 —	○ NNE 2 3.0 8.0 24.0 —	○ N 2 — 7.1 26.0 —	○ NNE 2 2.0 5.8 27.0 —	○ NNE 1 1.2 5.8 27.0 —
16:00	天候 風向 風力 気温 表面水温 比重 透明度	—	○ NE 2 — 8.0 25.0 —	○ NE 1 2.0 8.0 25.0 —	○ NNE 1 2.0 8.0 24.0 —	—	○ NNE 2 1.0 5.8 27.0 —	○ NNE 1 1.0 5.8 27.0 —

才4表 標流ビン捨得状況

回stビン%	月日	時間	場	所	回stビン%	月日	時間	場	所
1. 1. 08.	1-19	16:50	知多町日長川海岸		2. 1. 29	1-25	16:00	知多町長浦海岸	
1. 1. 11	◇	◇	◇		2. 2. 25	1-23	09:30	坂井新浜館下	
1. 1. 20	1-22	15:00	伊良湖岬		2. 2. 23	◇	◇	◇	
1. 1. 23	1-19	16:50	知多町日長川海岸		2. 2. 22	◇	◇	小鈴谷泉前	
1. 1. 30	1-18	11:30	◇	沖南	2. 2. 26	◇	12:30	◇	南景楼下
1. 3. 10	1-22	10:20	伊良湖岬	伊良湖岬西山日間所排 } 水門	2. 3. 08	◇	08:20	◇	泉前
1. 3. 17	◇	10:10	◇			2. 3. 10	◇	◇	大谷浜条前浜
1. 5. 22	1-19	11:46	大野沖海中灯台		2. 3. 06	◇	09:30	小鈴谷漁協前	
1. 5. 10					2. 3. 07	◇	08:00	◇	土管工場前
1. 5. 11					2. 3. 03	◇	09:00	◇	◇
1. 5. 13					2. 3. 05	◇	◇	◇	南景楼前
1. 5. 14	1-19		常滑漁協浮動柵		2. 3. 01	◇	12:30	多屋一本松下	
1. 5. 15	◇		大谷寄り		2. 4. 30	1-24		◇	重箱南
1. 5. 16	◇				2. 4. 28	◇		◇	◇
1. 5. 17					2. 4. 23	◇		◇	一本松下
1. 5. 18					2. 4. 24	1-26	10:00	常滑市覆戸墓	
1. 5. 19					2. 4. 26	1-24		◇	多屋重箱南
1. 5. 02					2. 5. 30	1-30	13:20	常滑市常滑北海岸	
1. 5. 04					2. 6. 04	1-23	08:20	小鈴谷神谷製陶前	
1. 5. 05					2. 6. 02	◇	08:30	◇	漁協前
1. 5. 07	1-19		小鈴谷漁協		2. 6. 09	◇	◇	◇	前
1. 5. 08	◇		大谷～小鈴谷間		2. 6. 21	◇	11:40	◇	脇浜地先
1. 6. 02									
1. 6. 27									
1. 6. 30									

註：1. 5. 22 才1回観測 st5より標流ビン番号30本中22号

才5表 水質及びスケルトネマ培養試験

回	項目	1		2		3		4		5		6		7		8	
		表層	底層	表層	底層	表層	底層	表層	底層	表層	底層	表層	底層	表層	底層	表層	底層
才	水温 ℃	9.8	9.0														
	chl %		16.63	17.63	17.69	17.68	17.88	17.69	17.69	17.69	17.69	17.66	17.90	17.71	17.94	17.60	
	採水時刻	13:15	13:15	13:55	14:45	15:00	15:00	15:30	15:30	15:30	15:30	15:45	16:10	16:10	12:50		
	水深 m	13.0	13.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.2	3.2			
一	透明度 m	1.8	1.8	2.5	2.8	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	C.O.D		1.28	0.80	0.96	0.88	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.32	0.48	0.90	568	
	スケルトネマ後 2日	+	-	+	±	++	++	+	+	+	+	+	+	++	±	-	
	スケルトネマ後 7日	+	±	+	±	+	+	+	+	+	+	±	±	+	±	±	
才	水温 ℃	7.0	6.5	6.8	7.2	7.0	7.3	7.5	7.3	7.5	6.9						
	比重	25.0		24.5		24.0		26.0		26.0							
	採水時刻	15:00	15:00	15:15	15:35	16:00	16:00	16:25	16:00	16:25	16:25						
	水深 m	10.65	10.65	2.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0						
二	透明度 m	1.6	1.6	1.4	2.8	2.4	2.4	3.0	2.4	3.0	3.0						
	スケルトネマ後 2日	±	±	+	++	++	+	++	+	++							
	スケルトネマ後 7日	±	±	+	+	+	+	++	+	++							
	採水時刻	15:00	15:00	15:15	15:35	16:00	16:00	16:25	16:00	16:25	16:25						

註 st8 海竜丸作業現場

1964年12月20日

才6表 愛知県鬼崎地先のり養殖環境予備調査

項目 st	水温℃	現場比重	採水時刻	12月21日正午の酸素量 $l/l$		12月21日午前生産量	
				プランク	鬼崎による	鬼崎による	小鈴谷による
防潮堤東口	12.3	25.0	14:08	458	646~676	188~218	168~241
新	12.3	25.0	14:12	480	668~676	188~196	197~213
旭	11.5	24.7	14:20	556	710~763	154~207	207~214
大	11.9	23.7	14:40	539	687~755	148~216	192~216
蒲	12.0	25.0	14:56	517	700~774	183~257	219~243
鬼	11.8	25.0	15:02	533	695~755	162~222	164~203
常	10.5	25.4	15:26	604	724~788	120~184	176~209
小	10.2	25.5	15:45	595	775~799	180~204	200~233
鈴	12.3	25.0	16:30	470	641~680	171~210	198~264

r/l 三重大学 海洋学教室 坂本助教授の資料

オ7表 のり葉体による生産力調査

0<sub>2</sub>量: cc/ℓ

st	オ1回試験 40. 1. 22		オ2回試験 40. 2. 5	
	プランク	試水	プランク	試水
名古屋港内	3.871	4.055	4.976	5.491
	5.566	5.735	4.043	7.567
日長	6.039	6.271	1.577	7.892
	6.384	4.815	1.753	7.195
大野	6.016	6.372	7.300	7.753
	6.023	6.300	6.986	7.236
蒲池	6.612	7.101	6.364	6.444
	5.140	6.061	6.251	6.208
常滑阿野	6.721	6.782		
	6.536	6.797		
小鈴谷	6.686	9.143		
	6.597	6.899		
		生産量		生産量
		0.184		0.505
		0.179		3.523
		0.232		1.315
		1.489		0.442
		0.356		0.453
		0.277		0.250
		0.489		0.080
		0.021		0.042
		0.061		
		0.261		
		0.457		
		0.302		

才 8 表

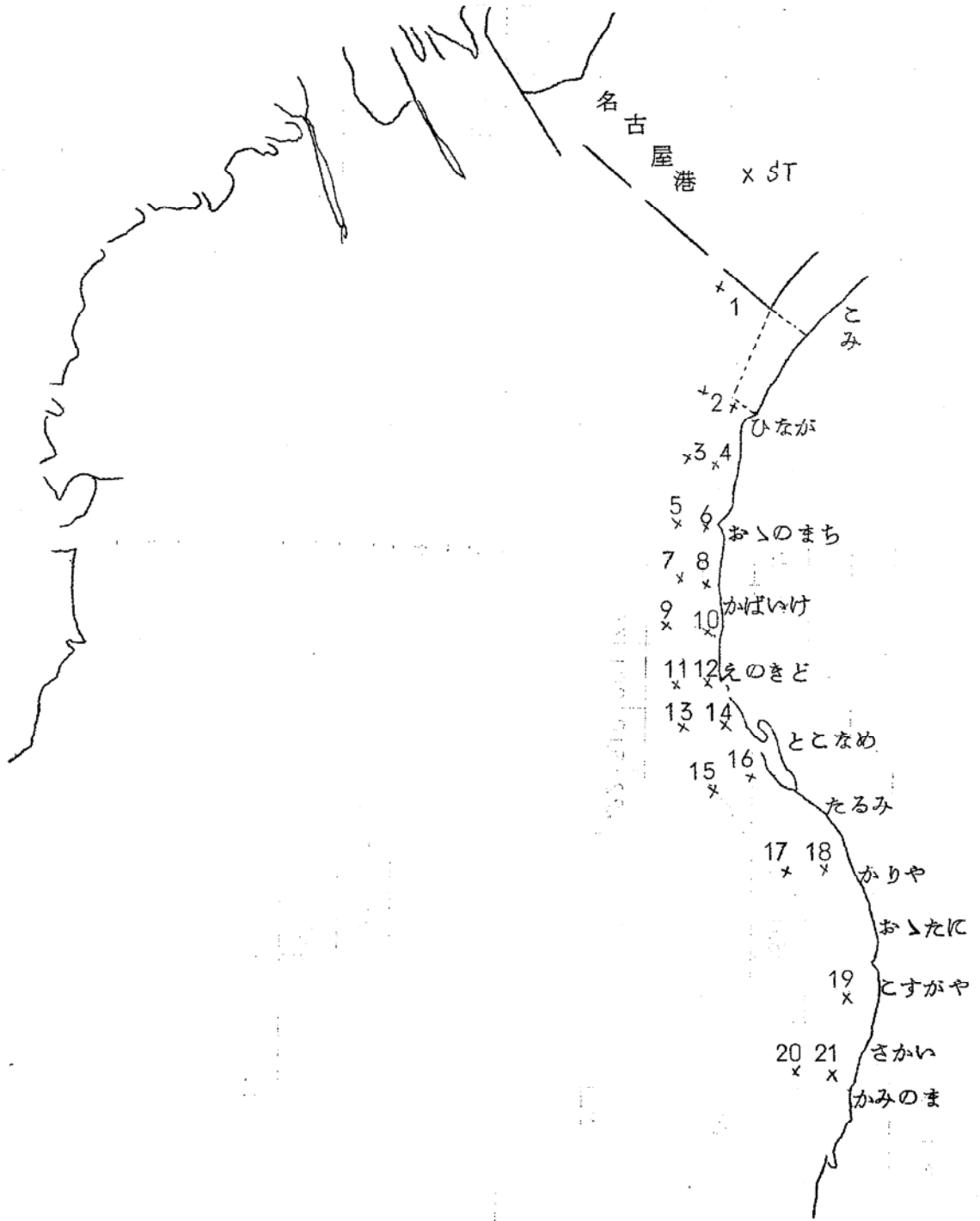
	st 1 市民病院下							st 2 榎戸港前							st 3 蒲池港前							
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
海底からの高さ Ⅱ	1.75	2.40	3.10	3.60	4.15	4.70	5.30	1.80	2.35	2.95	3.60	4.20	4.90	5.55	1.80	2.40	2.95	3.60	4.40	5.20	—	
沈没量 a CC	—	45	54	46	354	27	16	34	38	376	38	305	250	137	365	342	260	308	234	160	—	
窓の大きさ b	—	992	992	84	84	529	783	96	60	676	98	884	841	784	1225	972	638	1088	832	1287	—	
(a/b) 単位窓面積当り CC	—	4.53	5.44	5.47	4.22	5.10	2.04	3.54	6.33	5.56	3.87	4.45	2.97	1.75	2.97	3.51	4.07	2.83	2.81	1.24	—	
		st 4 大野港灯前							st 5 新舞子鉄塔前1500m							st 6 新舞子鉄塔前500m(流失)						
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
海底からの高さ Ⅱ	1.45	2.20	2.80	3.10	3.80	4.50	5.25	1.65	2.35	2.90	3.45	4.05	4.70	5.30	1.65	2.50	3.70	4.40	5.10			
沈没量 (a) CC	—	26.1	26.5	33.2	38.0	22.0	17.0	18.0	19.5	15.5	13.0	10.5	7.9									
窓の大きさ b	—	1003	70	682	960	992	630	928	832	854	827	8.10	6.38	5.13								
(a/b) 単位窓積当り CC	—	260	378	486	3.95	2.21	2.69	2.26	2.16	2.28	1.87	1.60	1.64	1.54								

註: st1-1, st4-1 は資料倒失のため欠測

才 9 表

浮泥の灼熱減量

試料	乾燥重量	灼熱減量	減量率
st 3 - 1	7.82 g	2.15 g	27.49 %
st 3 - 3	5.89	1.58	26.82
st 3 - 5	4.87	0.41	8.45





第10图 浮泥采集器水深位置

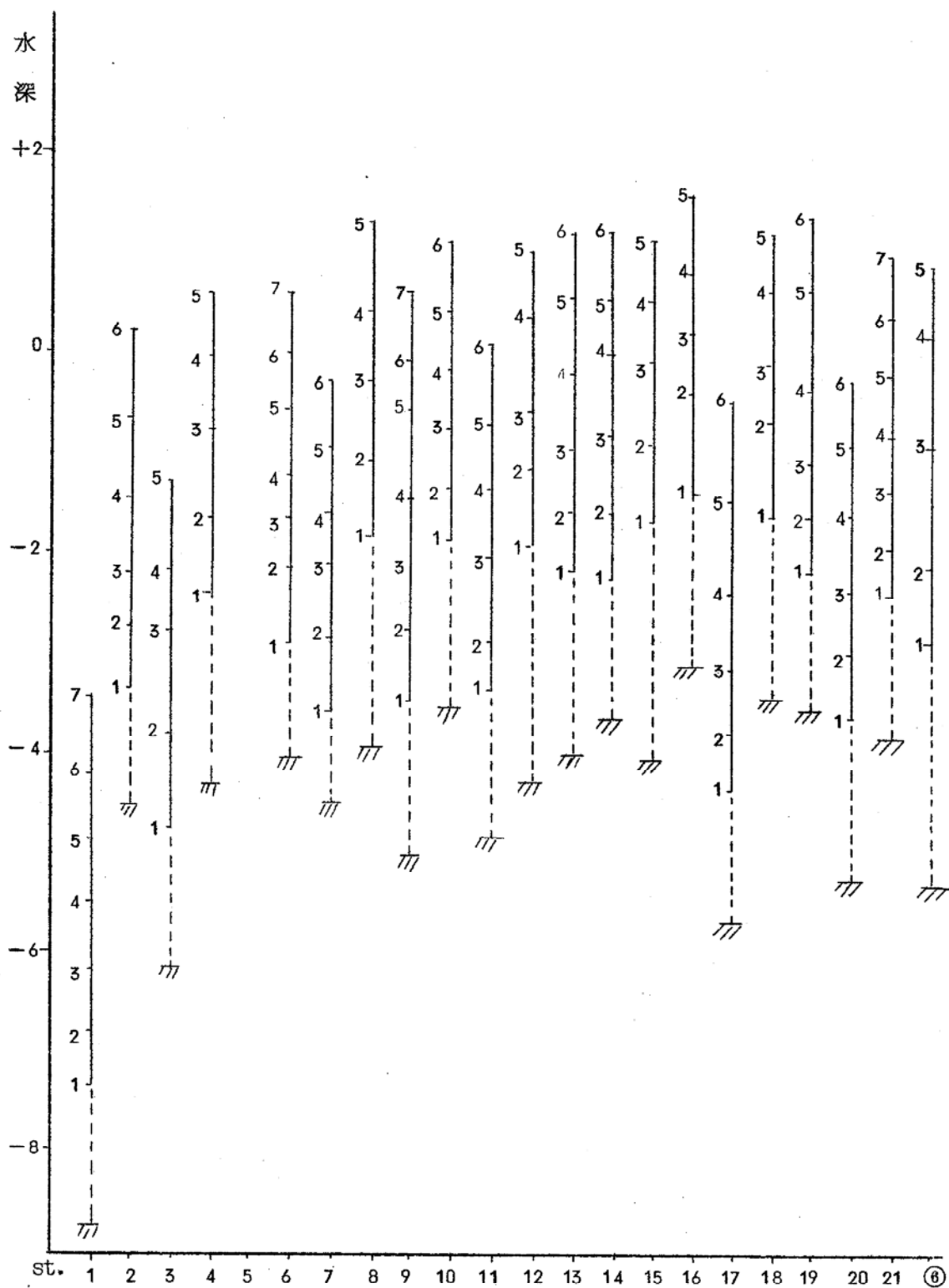


表 10 浮泥採集量と灼熱減量

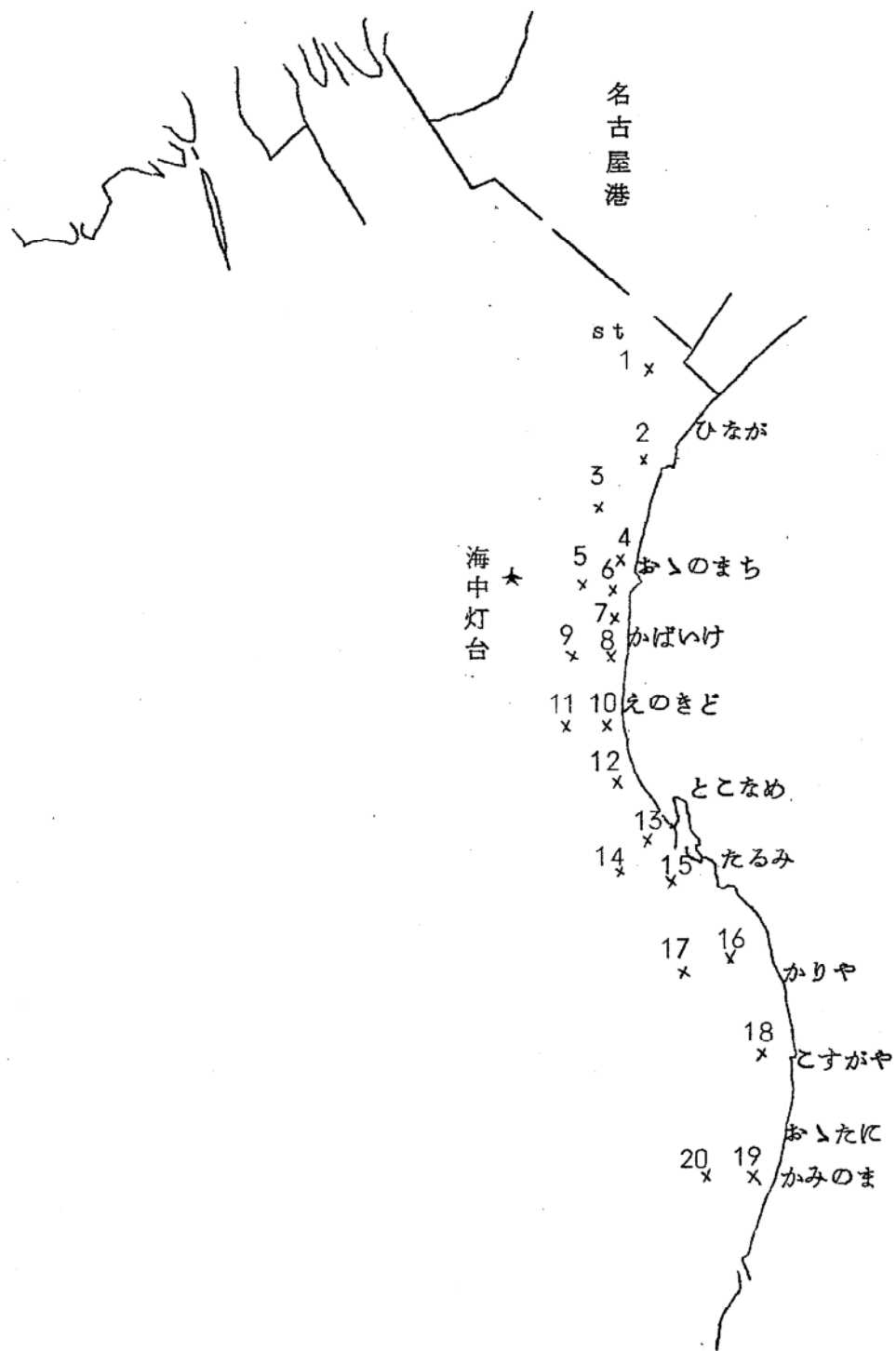
st	場所	窓番号	窓の大きさ	浮泥採集量	cc / cm <sup>2</sup>	乾燥重量(A)	灼熱重量(B)	(A) - (B)	灼熱減量%
1	防潮堤東口	1	3.78cm <sup>2</sup>	13.5cc	3.57	2.45	2.28	0.16	6.53
		2	5.40	15.0	2.78	2.80	2.53	0.27	9.64
		3	7.84	14.0	1.78	2.56	2.32	0.24	9.37
		4	7.20	13.5	1.88	2.50	2.22	0.28	11.20
		5	9.90	13.5	1.36	2.52	2.24	0.28	11.11
		6	7.04	13.5	1.92	1.74	1.56	0.18	9.76
		7	9.00	12.0	1.33	1.74	1.46	0.28	10.34
2	大山高	1	7.82	20.0	2.56				
		2	14.00	22.0	1.57				
		3	11.52	20.0	1.74				
		4	11.48	22.0	1.92				
		5	9.50	18.0	1.89				
		6	11.07	15.5	1.40				
3	日長沖	1	9.45	15.5	1.64	4.61	4.16	0.45	9.76
		2	11.20	14.0	1.25	3.90	3.57	0.33	8.46
		3	9.46	13.0	1.37	4.12	3.83	0.31	7.48
		4	11.34	13.5	1.17	3.27	3.00	0.27	8.25
		5	7.6	11.0	1.44	2.03	1.90	0.13	6.40
4	日長高	1	11.56	21.0	1.82	5.15	4.31	0.84	16.31
		2	11.70	21.5	1.84	5.11	4.32	0.79	15.42
		3	11.89	19.5	1.64	3.77	3.46	0.31	8.22
		4	12.60	15.5	1.23	2.99	2.72	0.27	9.03
		5	11.48	14.0	1.22	2.32	2.06	0.26	11.20
6	新舞子沖	1	9.62	5.5	1.46				
		2	6.20	12.5	1.89				
		3	6.75	13.0	2.17				
		4	5.72	12.5	2.10				
		5	7.77	12.0	1.75				
		6	6.00	11.0	2.03				
		7	6.00	8.5	1.72				

場	場所	窓番号	窓の大きさ	浮泥採集量	cc/cm <sup>3</sup>	乾燥重量(A)	灼熱重量(B)	(A) - (B)	灼熱減量 %
7	大野沖	1	10.44 cm <sup>2</sup>	145 cc	1.34	3.50	3.21	0.29	8.28
		2	9.45	165	1.44	4.07	3.74	0.33	8.10
		3	10.25	155	1.51	3.94	3.59	0.35	8.88
		4	13.77	155	1.13	3.75	3.46	0.29	7.73
		5	12.15	135	1.11	3.75	3.48	0.27	7.20
		6	11.88	120	1.01	2.94	2.73	0.21	7.14
8	大野高	1	10.05	145	1.44				
		2	10.12	160	1.58				
		3	9.10	145	1.59				
		4	9.62	80	0.83				
		5	9.62	100	1.04				
9	蒲池沖	1	9.25	1650	1.78	3.63	3.31	0.32	8.81
		2	13.65	1800	1.33	2.97	2.64	0.33	11.11
		3	9.60	1800	1.88	3.68	3.29	0.39	10.59
		4	12.60	1600	1.27	3.85	3.50	0.45	11.39
		5	9.72	150	1.54	3.10	2.74	0.36	11.61
		6	8.50	140	1.65	2.61	2.34	0.27	10.34
		7	8.37	100	1.19	2.17	1.97	0.20	9.21
10	蒲池高	1	8.96	250	2.79	7.71	6.95	0.76	9.85
		2	9.88	240	2.43	6.57	5.90	0.67	10.17
		3	9.10	225	2.47	7.21	6.63	0.58	8.04
		4	8.75	210	2.40	6.10	5.55	0.55	9.01
		5	8.64	190	2.20	4.19	3.79	0.40	9.54
		6	8.97	145	1.62	5.40	4.89	0.51	9.44
11	榎戸港沖	1	9.24	85	0.92				
		2	10.64	110	1.03				
		3	12.18	180	1.48				
		4	10.15	195	1.92				
		5	8.75	200	2.28				
		6	9.62	145	1.51				

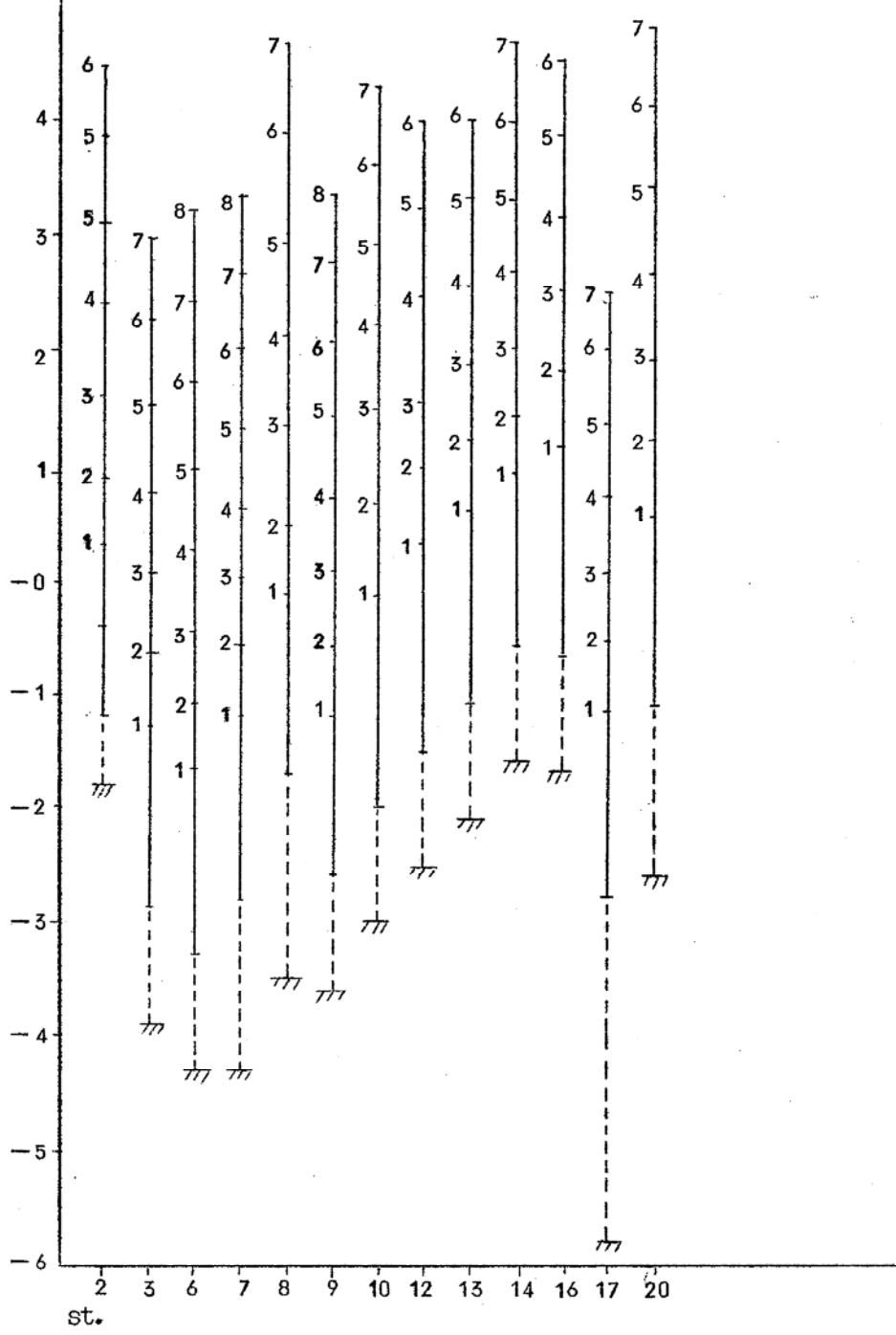
12	榎戸港高	1 2 3 4 5	1008 1204 1080 840 819	300 275 245 175 120	2.98 2.28 2.27 2.08 1.47								
13	市民病院沖	1 2 3 4 5 6	1044 1092 1107 1080 1026 1148	135 280 305 320 280 180	1.29 2.56 2.76 2.96 2.73 1.57								
14	市民病院高	1 2 3 4 5 6	1044 962 1290 1160 1160 768	150 190 195 210 140 110	1.44 1.98 1.51 1.81 1.21 1.42	4.68 6.67 7.24 7.29 4.75 3.51	430 6.13 6.63 6.65 436 351	0.38 0.54 0.61 0.64 0.39 0.32	9.11 8.09 8.42 8.77 8.21 8.35				
15	常滑港沖	1 2 3 4 5	1276 1408 1176 1350 1196	140 195 130 125 105	1.11 1.39 1.11 0.89 0.88								
16	黒ブイ	1 2 3 4 5	1290 702 1092 1073 984	270 265 230 200 150	2.09 3.77 2.11 1.86 1.52								
17	丸屋沖	1 2 3 4 5 6	1015 1189 1008 1008 966 983	100 105 100 95 — —	0.99 0.88 0.99 0.95 — —								

st	場所	窓番号	窓の大きさ	浮泥採集量	OC / cm <sup>2</sup>	乾燥重量(A)	灼熱減量(B)	(A) - (B)	灼熱減量 %
18	刈谷高	1	7.84 cm <sup>2</sup>	25.0 cc	3.19	9.39	8.79	0.64	6.83
		2	10.26	"	2.44	10.44	9.65	0.79	7.56
		3	10.40	"	2.40	10.50	9.74	0.77	7.33
		4	9.24	18.0	1.95	6.63	6.01	0.62	11.03
		5	7.00	6.0	0.86	2.01	1.77	0.24	11.94
	坂井高	1							
		2							
		3							
		4							
		5							
		6							
	上野間沖	1	8.19	14.0	1.71				
		2	10.12	14.5	1.43				
		3	10.92	13.5	1.24				
		4	10.00	13.5	1.35				
		5	10.40	11.0	1.06				
		6	9.43	10.5	1.11				
21	上野間高	1	10.25	15.0	1.46	6.70	6.23	0.47	7.01
		2	9.25	17.5	1.89	6.97	6.16	0.41	5.88
		3	10.64	22.0	2.17	8.47	7.74	0.74	8.73
		4	10.25	21.5	2.10	8.05	7.46	0.59	7.32
		5	12.00	21.0	1.75	7.99	7.45	0.54	6.75
		6	8.88	18.5	2.07	6.88	6.41	0.47	6.83
		7	9.00	15.5	1.72	6.00	5.64	0.38	6.83
㊦	才一回 日長川前	1	10.54	48.5	4.60				
		2	8.68	46.5	5.36				
		3	7.80	47.0	6.03				
		4	8.10	45.5	5.62				
		5	7.36	34.0	4.62				
		6	6.60	31.0	4.70				
	大野沖泥土					12.83	11.83	1.00	7.79

才11図 浮泥採集位置



第12圖 浮泥採集器水深位置



才 1 1 表 浮泥採集量と灼熱減量

st	位 置	窓 番 号	窓の大きさ	浮泥採集量	cm <sup>3</sup> /cc	乾燥重量(A)	(A)/cc×100	灼熱重量(B)	(B)/cc×100	
2	日長川高	1	8.06cm <sup>3</sup>	25 cc	3.11	6.33g	25.3%	5.84g	92.3	
		2	9.45	24	2.54	6.37	26.5	5.72	89.8	
		3	9.57	25	2.61	6.95	27.8	6.47	93.1	
		4	10.5	24	2.29	6.48	27	6.21	95.8	
		5	11.22	19	1.69	5.4	28.4	5.10	94.4	
		6	9.52	10.5	1.1	—	—	—	—	—
		7	8.06	2.0	0.25	—	—	—	—	—
3	新舞子沖	1	9.61	13	1.35	2.51	19.3	2.42	96	
		2	8.96	13	1.45	2.6	20	2.43	93.5	
		3	9.57	14.5	1.51	2.99	20.6	2.91	97.3	
		4	8.7	13	1.49	2.2	16.9	2.09	95	
		5	8.1	13.5	1.67	2.16	16	2.10	97.2	
		6	破 損	—	—	—	—	—	—	—
		7	6.57	1.8	0.27	t	—	—	—	—
6	大野川高	1	8.1	27	3.33	6.49	24	6.01	92.6	
		2	9.3	27	2.9	6.40	23.7	6.10	95.3	
		3	10.54	24	2.28	6.02	25.1	5.68	94.4	
		4	7.68	20	2.6	4.65	23.3	4.31	92.7	
		5	7.75	19	2.45	4.21	22.2	3.98	94.5	
		6	7.2	15.5	2.15	3.22	20.8	3.03	94.1	
		7	8.0	9	2.13	1.01	11.3	0.89	87.3	
		8	7.5	t	t	—	—	—	—	—
7	西口高	1	6.76	37	5.47	8.73	23.6	8.12	92.8	
		2	9.6	38.2	3.88	8.59	23.3	8.31	93.5	
		3	10.8	39.6	3.67	9.19	25	8.68	94.5	
		4	8.31	33.0	3.97	7.49	22.7	7.10	94.8	
		5	7.84	25.5	3.25	5.94	23.3	5.53	93.1	
		6	10.54	18.0	1.71	5.70	20.6	3.43	92.7	
		7	7.25	10cc以下	t	t	—	—	—	—
		8	8.16	〃	t	t	—	—	—	—



	位置	窓番号	窓の大きさ	浮泥採集量	cm <sup>3</sup> /cc	乾燥重量(A)	(A)/cc×100	灼熱重量(B)	(B)/cc×100
8	蒲池高	1	7.20cm <sup>2</sup>	41.0cc	5.85	10.77g	26.3%	10.02g	93
		2	7.28	43.1	5.92	11.03	25.6	9.85	89.3
		3	7.56	38.3	5.07	8.51	22.2	8.05	94.6
		4	8.68	33.5	3.86	8.35	24.9	8.31	98.8
		5	8.40	25.0	2.98	6.20	24.8	5.83	94.0
		6	6.5	21.0	3.23	4.81	22.9	4.49	93.3
		7	8.37	5.1	0.61	0.71	13.9	0.81	114
9	蒲池沖	1	9.28	43	4.13	11.03	25.6	10.31	93.5
		2	8.64	37.5	4.34	9.85	26.3	8.26	83.9
		3	9.52	35	3.68	9.1	26	8.45	92.9
		4	10.24	24.5	2.39	8.78	35.8	6.29	71.6
		5	9.57	0	0	0	—	—	—
		6	9.3	0	0	0	—	—	—
		7	7.29	0	0	0	—	—	—
10	榎戸高	1	11.16	47	4.21	13.08	29.4	12.25	93.7
		2	11.52	45	3.91	12.05	27.8	11.18	92.8
		3	12	39	3.25	10.1	25.9	9.19	91
		4	10.8	31	2.87	8.56	27.6	7.40	86.4
		5	9.86	24	2.43	6.57	27.4	6.06	92.3
		6	7.92	15.5	1.83	3.50	25.9	3.38	96.6
		7	9.88	7	0.71	1.55	22.1	1.54	99.4
12	多屋高	1	8.84	35.5	4.02	9.15	25.8	8.28	90.5
		2	8.64	30.1	3.48	7.87	26.1	7.36	93.5
		3	9.99	31.5	3.15	8.11	25.7	7.45	91.9
		4	8.0	28.0	3.5	6.9	24.6	6.29	91.2
		5	9.18	20.5	2.23	5.2	25.4	4.75	91.3
		6	9.62	12.5	1.3	2.51	20.1	2.19	87.3